

**令和 8 年度「2050 先導型住宅推進事業」
提案の評価結果について**

1. 提案募集の状況及び審査の経緯

- (1) 令和 8 年 5 月 28 日～6 月 25 日の提案募集期間に、36 者 53 件の提案を受け付けた。提案の内訳は以下のとおり。

住宅種別	提案数
新築	53 件
注文住宅（戸建て住宅）	52 件
分譲住宅（戸建て住宅）	4 件
分譲住宅（共同住宅）	0 件
賃貸住宅	1 件
リフォーム	0 件
戸建住宅	0 件
共同住宅	0 件
合計	53 件

※ 1 つの提案で複数の住宅種別を提案しているものがある。

- (2) 評価委員会において、以下の視点により、提案プロジェクトを総合的に評価した。

	評価項目	評価の観点
レジリエンス性の評価	① 居住継続・生活継続の実現への貢献	○ 住宅の居住者において、想定するリスクの発現に際して、当該住宅を拠点とした居住継続・生活継続の実現に向けて、貢献度が高い提案となっているか。 ○ また、以下に示すレジリエンス性の確保に係るタイムラインとの関係性を整理した上で、ストーリーが明確な提案となっているか。 ① 平時の安全性・居住性・利便性の確保と発災時の備えの両立（フェーズフリー） ② 発災によって生じる損傷・被害の最小化 ③ 発災後一定期間の最低限の居住継続の確保 ④ 平時状態への迅速な復旧
	② 課題の明確性・妥当性	○ 提案の前提となる課題設定が、明確に提示されているかどうか。 ○ 設定されている課題が、専門家による指摘・分析に基づくなど、客観性のある内容になっているかどうか。 ○ 設定されている課題と、その解決に向けた提案内容が、整合性のあるものになっているかどうか。

	評価項目	評価の観点
モデル性の評価	③ 提案内容の先導性	○ 2050 年を見据えた先導性の高い提案となっているか。 ・ 新技術や未普及技術の導入 ・ 将来の人口・世帯減、生産年齢人口減少等社会構造変化への対応 ・ 既存の住宅ストックへの適用可能性 等
	④ 提案内容の実現可能性	○ 提案内容が、モデル事業者における、技術面、安全面、住宅の供給戸数、事業スケジュールその他の事業実施体制に係る観点から、実現可能性が高いものであるかどうか。
	⑤ 提案内容の普及可能性	○ 提案内容に含まれる措置（採用される機器、システムなど）が、将来的に、モデル事業者以外の住宅事業者においても採用できる汎用性を有するものであるかどうか。
効果検証に係る評価	⑥ 事業の効果	○ 効果検証の方法が、明確に示されているかどうか。 ○ 効果検証の方法が、提案の措置内容とサンプル数等の観点から、妥当なものであるかどうか。 ○ 提案内容が広範に普及することとなった場合、地域の活性化、新たな雇用創出その他の副次的な効果を生み出す可能性が期待できるかどうか。

2. 評価の総評

- 今回の募集では 36 者 53 件の提案があり、24 者 27 件を採択事業として適切であると評価した。
- 全体としては、複数のレジリエンス措置を盛り込んだ総合的な提案が多く見られ、その総合力の高さが評価された。一方で、水害対策や台風対策などに特化した提案も見られ、その特徴的な取組みを評価された提案もあった。今後、総合的な提案だけではなく、特定のリスクやレジリエンス措置に深く踏み込んだ提案も増えることを期待する。
- 先導性の高い意欲的な新技術の提案は高く評価されたものの、実効性、実現可能性への懸念から採択に至らなかったものもあった。今後はそれらの懸念を払拭する新技術の提案を期待する。
- 平常時から災害リスクや備蓄の状況、非常時の機器の有効な使い方等の情報を居住者に提供することを通じて、居住者の行動変容を促したり、非常時の居住者の冷静な判断をサポートするといったソフト的な取組みも行う提案については、高く評価された。
- 今回の提案は注文戸建住宅の新築に集中しており、賃貸住宅の新築に対する提案は 1 件のみであった。また、既存住宅の改修に関する提案はなかった。今後はそれらを対象とする取組みが増えることを期待する。
- 地域の工務店による発災後の住宅被害状況の確認や補修相談対応などの地域に根差した提案については高く評価された。一方で、地域性について言及している提案はそれほど多くはなかった。レジリエンスは個人だけではなく地域で高める視点も重要であるため、地域の工務店が「自分たちの地域の住宅は自分たちが守る」という意識を持って取り組む提案も期待する。
- 想定するリスクに対する被害想定や、発災後に提案地域で起こり得る問題を深く掘り下げて考えている提案については、高く評価された。